

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年9月12日

【四半期会計期間】 第21期第1四半期(自平成24年5月1日 至 平成24年7月31日)

【会社名】 株式会社テンポスバスターズ

【英訳名】 TENPOS BUSTERS Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 森下 和光

【本店の所在の場所】 東京都大田区東蒲田二丁目30番17号

【電話番号】 03(3736)0319

【事務連絡者氏名】 管理部長 毛利 聡

【最寄りの連絡場所】 東京都大田区東蒲田二丁目30番17号

【電話番号】 03(3736)0319

【事務連絡者氏名】 管理部長 毛利 聡

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第20期 第1四半期 連結累計期間		第21期 第1四半期 連結累計期間		第20期	
	自 至	平成23年5月1日 平成23年7月31日	自 至	平成24年5月1日 平成24年7月31日	自 至	平成23年5月1日 平成24年4月30日
売上高 (百万円)		3,640		4,129		14,508
経常利益 (百万円)		311		300		1,195
四半期(当期)純利益 (百万円)		172		166		682
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)		185		182		767
純資産額 (百万円)		2,782		3,547		3,364
総資産額 (百万円)		4,585		5,283		5,416
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)		4,351.46		4,206.17		17,245.69
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)						
自己資本比率 (%)		55.08		60.60		56.05

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、株式会社スタジオテンポス及び株式会社テンポス店舗企画は、業績等の重要性が増加したため、連結子会社に加わりました。株式会社M FOODは、業績等の重要性が低下したため、連結子会社から除外いたしました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間における当社グループの中心顧客である外食産業におきましては、依然として続く個人消費者の節約志向や企業間の低価格化競争の激化に加え、原料価格の高騰による食材価格の上昇等もあり、引き続き厳しい経営環境となっております。

このような状況の中で、当社グループは当期の方針を、「フードビジネスプロデューサー（以下：FBP）化」に定め活動しております。

当社の目指すFBPとは、個人飲食店経営者様及び飲食企業様を中心に、居抜物件等の不動産物件の仲介及び紹介、品質とコストの両立を目指した内装工事請負、多様な資金ニーズに応えるためのリース・クレジット取扱、メニュー開発・販売促進提案、開業のための事業計画立案支援、M&Aの提案及び相談の受付、FC本部支援等を行うものであります。

FBP化の推進により当社グループの中核事業を、現在の店舗販売事業から、将来的にはFBP事業へと移行し、情報とサービスを提供する企業となるため、教育と実績作りに注力いたしております。

当第1四半期連結累計期間の連結業績は、売上高が41億29百万円（前年同期比13.4%増）、営業利益が2億77百万円（同6.5%減）、経常利益が3億円（同3.3%減）となりました。

なお、今期より当社グループの事業部門を、個人飲食店様を顧客の中心として店舗での接客及び販売を行う「店舗販売事業」、飲食企業様を顧客の中心としてFBP活動を行う「FBP事業」、飲食店の経営を行う「飲食事業」の3つとして、管理運営しております。

事業部門別の概況は次のとおりであります。

店舗販売事業につきましては、全国の店舗において、FBPの先駆けとなるための個人相談会の開催、在庫商品の統一と売場陳列の平準化を行うためのモデル店舗化、パート社員のスキル向上を行うためのパート戦力化を中心に行いました。

個人相談会の開催は、当社で積み上げた開業のためのノウハウを店舗の販売員が役割分担をして、開業予定の顧客に対して行いました。具体的には、「事業計画書作成ノウハウ」「飲食店開業立地診断」「店舗コンセプトの作り方」等のテーマを個人相談する形式で毎週行い、開業までのサポートと開業してからのサポートを行っております。

モデル店舗化は、売れ筋商品の在庫化の全店統一、本部主導による新規導入商品の推進、陳列方法変更及び棚変更による買い回りしやすさ重視の売場作成を行っております。これらの完了後には、客単価の向上と粗利率の向上を見込んでおります。

パート戦力化は、既存パート社員のスキルを体系的に仕分け、スキルの習得と給与体系を同列化することにより、給与効率の最大化と従業員モチベーションの向上に取り組んでおります。

店舗販売事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は23億78百万円（前年同期比9.7%増）、営業利益は1億98百万円（同15.8%減）となっております。

FBP事業につきましては、店舗からのFBP候補生の受け入れ教育、品質とコスト追求のための内装施工業者勉強会の開催、飲食店舗では相当数発生する小工事ニーズに応えるための大工の組織化、検索性の向上による購買件数増加のためのWeb通販サイトのカテゴリ変更等を中心に行いました。

FBP候補生の受け入れ教育は、店舗の販売員をFBPとするための社内留学制度であり、北海道、関東、関西、九州の各エリアからFBP候補生をFBP推進事業部へ受け入れ、不動産、内装、事業計画立案等の教育プログラムの実施とそれらの実務を経験させ、3ヶ月間で総合的な提案のできる初級のFBPとして育て上げております。教育を受け終わったFBP候補生は、各エリアへ戻り、店舗での接客販売ではなく、FBPとしての活動を行っております。

内装施工業者勉強会の開催は、実際に内装工事を施工する各業者を一同に集め、品質を上げてコストを下げるための情報交換、施主様との円滑なコミュニケーションを行うための現場対応等を勉強会形式で行っております。

大工の組織化は、当社の飲食事業でも発生しております大工のみで完結する小工事等のニーズに応えるため、各エリアの大工を組織化し、紹介を行うためのものであります。これにより工務店ではなく、大工を直接紹介するため、お客様は非常に安価に工事を行うことが可能になっております。これによる当社の収益へ与える影響は軽微ですが、その中から派生する内装工事を請負うことにより、業績へ寄与することを見込んでの施策であります。

Web通販サイトのカテゴリ変更は、それ自体による収益への影響は即時にはありませんが、中長期的には検索性の向上による業績への寄与があると見込んでおります。なお、Web通販サイトの売上高は、1億69百万円（同17.3%増）、営業利益は9百万円（同157.5%増）となっております。

FBP事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は9億1百万円（同23.8%増）、営業利益は41百万円（同0.5%減）となっております。

飲食事業につきましては、再来店頂く店舗となるためにサービストレーニングの強化、値頃感のある420円サラダバーの導入、各種フェアを含むイベントの毎月開催、メール会員へのメール配信によるディナー集客等を行いました。

サービストレーニングの強化は、従来より継続実施しているサービストレーニングの効果により、店舗ごとのリピート率の向上が見られたため、覆面調査の結果から各店舗の強み弱みを分析し、教育担当者がその強化教育を行い、店長がそれを徹底して実施することを行っております。

420円サラダバーの導入は、全店で19店舗となり、その19店舗の売上前年比は118.0%となっております。これは従前では1,100円であったサラダバーを、420円で提供することにより顧客満足を得ることを目的に実施しております。

イベントの毎月開催は、春フェアとしてカキフライの推奨販売や豪州黒牛ステーキの推奨販売を行い、それと並行して本部指示としてトンテキマレーナ・イチゴフェア、母の日プレート、塩麹ランチ・ギフト等を行いました。

メール会員へのメール配信は、平成24年3月末時点で約3万6千人の会員が平成24年6月末時点では約4万人となっており、毎月会員数が増加しております。メール配信メニューのディナー割合は、4月4.9%、5月9.5%、6月12.9%と毎月上昇しております。

飲食事業の当第1四半期連結累計期間の売上高は8億49百万円（同13.9%増）、営業利益は39百万円（同73.0%増）となっております。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は52億59百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億57百万円減少しました。その内容は、以下のとおりであります。

(流動資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産の残高は34億80百万円となり、前連結会計年度末に比べて1億43百万円減少いたしました。この主因は現金及び預金が1億8百万円、繰延税金資産が79百万円減少したことによります。

(固定資産)

当第1四半期連結会計期間末における固定資産の残高は17億78百万円となり、前連結会計年度末に比べて13百万円減少いたしました。この主因は関係会社株式が11百万円減少したことによります。

(流動負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債の残高16億53百万円となり、前連結会計年度末に比べて2億97百万円減少いたしました。この主因は未払法人税等で3億24百万円の減少があったことによります。

(固定負債)

当第1四半期連結会計期間末における固定負債の残高は82百万円となり、前連結会計年度末に比べて18百万円減少いたしました。この主因は長期借入金で18百万円減少したことによります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べて1億57百万円増加し、35億23百万円となりました。これは、利益剰余金で1億51百万円、少数株主持分で7百万円増加したことによります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	190,000
計	190,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年7月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年9月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	47,716	47,716	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株制度を 採用していません。
計	47,716	47,716		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年7月31日		47,716		509		472

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年4月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,666 (相互保有株式) 普通株式 600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 39,450	39,450	
単元未満株式			
発行済株式総数	47,716		
総株主の議決権		39,450	

(注) 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成24年4月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成24年4月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社テンポス バスターズ	東京都大田区東蒲田 二丁目30番17号	7,666		7,666	16.07
(相互保有株式) 株式会社テンポス ファイナンス	東京都大田区東蒲田 二丁目30番17号	600		600	1.26
計		8,266		8,266	17.32

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成24年5月1日から平成24年7月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成24年5月1日から平成24年7月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、大有ゼネラル監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,658	1,550
受取手形及び売掛金	239	243
たな卸資産	1,470	1,481
短期貸付金	11	22
関係会社短期貸付金	-	9
繰延税金資産	180	124
その他	65	72
貸倒引当金	1	0
流動資産合計	3,624	3,504
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	421	419
機械装置及び運搬具（純額）	13	15
土地	87	87
その他（純額）	21	20
有形固定資産合計	543	543
無形固定資産		
のれん	107	101
その他	27	26
無形固定資産合計	134	127
投資その他の資産		
投資有価証券	173	172
関係会社株式	202	191
長期貸付金	218	216
長期未収入金	2	2
敷金及び保証金	519	525
繰延税金資産	122	122
その他	3	4
貸倒引当金	129	126
投資その他の資産合計	1,113	1,108
固定資産合計	1,792	1,778
資産合計	5,416	5,283

	前連結会計年度 (平成24年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年7月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	812	838
短期借入金	36	21
1年内返済予定の長期借入金	84	79
未払法人税等	368	43
賞与引当金	153	100
製品保証引当金	11	12
その他	483	557
流動負債合計	1,951	1,653
固定負債		
長期借入金	64	46
長期預り敷金	8	9
その他	27	27
固定負債合計	100	82
負債合計	2,052	1,736
純資産の部		
株主資本		
資本金	509	509
資本剰余金	472	472
利益剰余金	2,876	3,042
自己株式	821	821
株主資本合計	3,036	3,201
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	0
その他の包括利益累計額合計	0	0
少数株主持分	328	346
純資産合計	3,364	3,547
負債純資産合計	5,416	5,283

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年5月1日 至平成23年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成24年7月31日)
売上高	3,640	4,129
売上原価	2,171	2,536
売上総利益	1,468	1,592
販売費及び一般管理費	1,171	1,315
営業利益	296	277
営業外収益		
受取利息	2	2
持分法による投資利益	10	20
その他	6	4
営業外収益合計	19	27
営業外費用		
支払利息	4	0
支払手数料	-	-
その他	0	3
営業外費用合計	5	4
経常利益	311	300
特別利益		
賞与引当金戻入額	1	-
関係会社株式売却益	1	-
その他	0	-
特別利益合計	2	-
特別損失		
貸倒引当金繰入額	7	-
固定資産除却損	0	0
その他	0	-
特別損失合計	7	0
税金等調整前四半期純利益	306	300
法人税、住民税及び事業税	24	61
法人税等調整額	96	55
法人税等合計	120	117
少数株主損益調整前四半期純利益	185	183
少数株主利益	13	16
四半期純利益	172	166

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年5月1日 至平成23年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成24年7月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	185	183
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	0
持分法適用会社に対する持分相当額	-	-
その他の包括利益合計	0	0
四半期包括利益	185	182
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	171	166
少数株主に係る四半期包括利益	13	16

【継続企業の前提に関する事項】

当第1四半期連結会計期間（自 平成24年 5月 1日 至 平成24年 7月31日）

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年 5月 1日 至 平成24年 7月31日)
(1) 連結の範囲の重要な変更 当第1四半期連結会計期間(自 平成24年 5月 1日 至 平成24年 7月31日) 株式会社スタジオテンポス及び株式会社テンポス店舗企画は、業績等の重要性が増加したため連結子会社の範囲に加えました。 株式会社M FOODは、業績等の重要性が低下したため、連結子会社から除外いたしました。
(2) 持分法適用の範囲の重要な変更 該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年 5月 1日 至 平成24年 7月31日)
(会計方針の変更) (減価償却方法の変更) 法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年 5月 1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。なお、これによる損益に与える影響は軽微であります。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

該当事項はありません。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係）

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年 5月 1日 至 平成23年 7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年 5月 1日 至 平成24年 7月31日)
減価償却費	12	16
のれんの償却額	6	6

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成23年5月1日至平成23年7月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年7月23日 定時株主総会	普通株式	36	900	平成23年4月30日	平成23年7月25日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成24年5月1日至平成24年7月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年7月21日 定時株主総会	普通株式	40	1,000	平成24年4月30日	平成24年7月23日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成23年5月1日 至 平成23年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 上額(注)
	店舗販売事業	FBP事業	飲食事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	2,166	727	745	3,640		3,640
セグメント間の内部 売上高又は振替高	95	16		111	111	
計	2,261	744	745	3,751	111	3,640
セグメント利益	235	41	23	300	3	296

注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

当第1四半期連結累計期間(自 平成24年5月1日 至 平成24年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 上額(注)
	店舗販売事業	FBP事業	飲食事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	2,378	901	849	4,129		4,129
セグメント間の内部 売上高又は振替高	141	17		159	159	
計	2,520	919	849	4,289	159	4,129
セグメント利益	198	41	39	279	1	277

注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結累計期間から、株式会社スタジオテンポス及び株式会社テンポス店舗企画が連結子会社となったことに伴い、報告セグメントの区分方法を変更しております。これは、当社グループが、業態別に区分された事業ごとに当社及び当社の連結子会社が各々独立した経営単位として主体的に経営戦略を立案し事業活動を展開しており、その上で、店舗での販売を主たる事業とする「店舗販売事業」、フードビジネスプロデューサー(以下：FBP)として、飲食企業様に対して不動産仲介及び紹介、内装工事請負、リースクレジット取扱等の開業支援及び経営サポートを主たる事業とする「FBP事業」、飲食店経営を主たる事業とする「飲食事業」の3つを報告セグメントとしているためであります。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成しており、前第1四半期連結累計期間の「報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報」に記載しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年5月1日 至平成23年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成24年7月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	4,351円46銭	4,206円17銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	172	166
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	172	166
普通株式の期中平均株式数(株)	39,565	39,565

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年9月11日

株式会社テンポスバスターズ
取締役会 御中

大有ゼネラル監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 神山 貞雄 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 岩村 浩秀 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社テンポスバスターズの平成24年5月1日から平成25年4月30日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成24年5月1日から平成24年7月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成24年5月1日から平成24年7月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社テンポスバスターズ及び連結子会社の平成24年7月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。